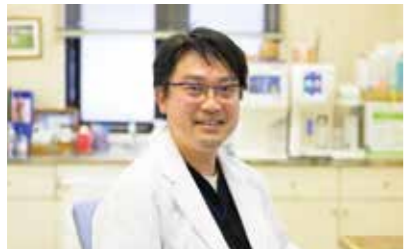


連携医療機関のご紹介

今回は、南区東本浦の「秋本外科クリニック」にて、2023年に新たに院長に就任された秋本修志先生に、現在と今後の想いをお話いただきました。



秋本院長

医療法人 秋本外科 クリニック

〒734-0025
広島市南区東本浦町5-22
電話 / 082-288-4114
院長 / 秋本 修志
診療科目 / 外科、整形外科、内科、
胃腸内科、リハビリテー
ション科、訪問診療、
臓器移植科



外観



待合室

〇開業されてから、そして院長に就任されてから今までのことを教えてください。

「秋本外科クリニック」は、秋本尚孝理事長が1990年に開院して以来、35年以上にわたり地元密着型の医療の提供に取り組むクリニックです。広島大学病院での初期臨床研修を経て、同大学の消化器・移植外科に入局しました。広島県内の基幹病院で消化器外科や透析外科、移植外科で修練を積み、2023年4月に私が院長に就任し、親子2代での診療体制がスタートしました。「臓器移植後の患者さんのフォローアップや訪問診療にも力を入れ、どんなことでも頼っていただけるクリニックをめざしたい」と思っています。

〇クリニックの特徴を教えてください。

当院では、2階には居宅介護支援事業所やデイサービスといった介護関連施設も併設しており、医療だけでなく介護福祉の側面からも地域でのくらしを支えています。ケガなどの一般外科や整形外科のみならず、現在は消化器外科で培った知見を活かし、消化器疾患における各種検査（血液検査、レントゲン、エコーなど）や上部内視鏡検査（経鼻胃カメラ）にも対応しています。また、自立支援医療機関（更生医療）の指定を受け、移植施設（県立広島病院、広島大学病院、呉医療センター）と連携した腎移植外来もスタートしています。最近では、食事摂取も点滴も困難な患者さんへの植込み型CVポートの造設、管理も積極的に行うようにしています。

〇毎日の診療で大切にしていること、やりがいを教えてください。

当院では、患者さんのQOL（生活の質）の維持・向上を第一に考え

た治療とケアを目指し、悩みを抱える患者さんの訴えに耳を傾け、自立した生活を送ることができるようサポートしています。些細なことでもコミュニケーションを大切に、ご本人だけでなく、ご家族の心配、不安、負担をできるだけ軽減し、身近な相談役として介護の面でも地域を支えていきたいと考えています。訪問診療にも注力し、がん末期の方の在宅医療も行うなど、地域の頼れるかかりつけ医を目指しています。地域の方々や救急隊に「とりあえず秋本に連絡しよう、診てもらおう」「秋本に依頼してよかった」と頼っていただけるようなクリニックでありたいと思っています。どんなことでもお困りのことがありましたらお気軽にご相談ください。

〇県病院はどんなところですか。

大変心強い存在です。救急の依頼も、いつもスムーズに受け入れていただけて大変感謝しております。



スタッフ

【取材後記】

勤務医の頃には急性期病院で日々手術を行っていたこともあり、今のようによく患者さんとゆっくりお話できることが少なかったそうです。一方で、外科で培ったスキルをなるべく患者さんに生かそうと、勤務医とかかりつけ医のご経験をしっかりとつなぎ合わせ、サービスを提供していくという視点をひしひしと感じました。

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

産婦人科



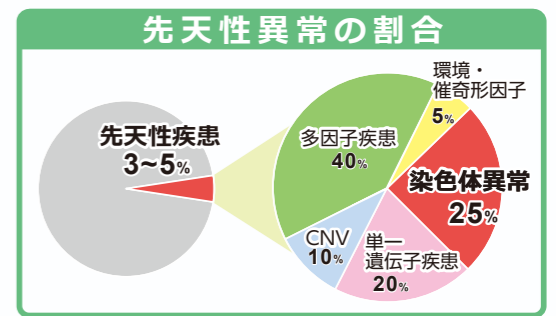
出生前診断

産婦人科部長(兼)
ゲノム診療科部長
児玉 美穂



出生前診断

「出生前診断」「出生前検査」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「出生前検査」は、赤ちゃんが産まれる前に生まれつきの病気がないかどうかを調べる検査のことをいいます。(日本産婦人科医会)では、生まれてくる赤ちゃんはどれくらいの頻度で先天的な(生まれつきの)病気をもっていると思いますか？
赤ちゃんの3~5%は何らかの疾患をもって生まれてきます。これらの疾患は妊娠中に診断できるものもあれば、出産後に初めてわかるものもあります。出生前診断と聞くとなんとなく染色体の病気を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、染色体疾患は原因の約1/4くらいと言われています。



出生前検査認証制度等運営委員会 NIPT 説明書より

出生前診断・出生前遺伝学的検査と遺伝カウンセリング

出生前診断のための検査方法には色々なものがあります。超音波検査も重要な検査方法のひとつですし、考えられる病気によってはMRIやCTといった検査を行うこともあります。これらの検査は主として心臓や内臓などの形の病気を診断する方法ですが、染色体や遺伝子を調べる検査のことを「出生前遺伝学的検査」と言います。検査が始まった当初、胎児の染色体の病気が母体の採血でわかる話題になったNIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査)は血液検査です(胎児の染色体の病気の可能性について高い精度で知ることができる検査で、確定診断ではありません)。出生前遺伝学的検査に際しては、遺伝カウンセリングで検査や検査結果について理解したり、検査を受けた後の対応やサポート体制が整った中で受けることが勧められています。

次頁に続きます→

県立広島病院からのお知らせ

3月のがんサロン

開催日時 令和7年3月19日(水) 14:00~15:00
場所 新東棟2階 総合研修室及びオンライン
テーマ 『膵臓がん・胆のう・胆管がんを学ぼう!』
講師 臨床腫瘍科 / 山内 理海 医師
対象 がんを経験された方やそのご家族
(当院受診歴不問)
問合せ先 がん相談支援センター
☎082-256-3561
hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp





当院HPのURLが変わります!

令和7年4月1日より当院ホームページのURLを変更いたします。当面は自動で新URLに転送する設定ですが、お気に入りやブックマークに登録いただいている場合は、お手数ですが4月以降に新URLへ再登録をお願いいたします。新URLは4月にHPまたは次号の「広報誌もみじ」にてお知らせいたします。



出生前検査の方法

出生前検査にはいくつかの方法があります。それぞれの検査の実施時期やわかることなど検査ごとの特徴を理解して、検査を受けるかどうか、受ける場合にはどの検査を受けるのかの選択をすることになります。

	非確定的検査 (非侵襲性検査)			確定的検査 (侵襲性検査)
	超音波マーカー検査 (コンパインド検査)	母体血清 マーカー検査	NIPT (非侵襲性出生前 遺伝学的検査)	羊水染色体検査
実施可能時期	11～13週	15～18週	9～10週以降	15～16週以降
対象染色体疾患	21トリソミー 18トリソミー (13トリソミー)	21トリソミー 18トリソミー	21トリソミー 18トリソミー 13トリソミー	染色体疾患全般
検査内容	超音波検査 (NTなど) コンパインド検査は 採血も必要	採血のみ	採血のみ	羊水穿刺
				
21トリソミーに ついての 検出率(感度)	NT-60%程度 コンパインド 検査: 80%	80%	99%	99.9%
結果の出方	確率(1/1000) および 陽性・陰性	確率(1/1000) および 陽性・陰性	陽性・陰性・ 判定保留	染色体の写真・ 核型
検査の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 偽陽性が多い 流産リスクがない 実施可能施設が 限定される 安価 実施時期が早い 	<ul style="list-style-type: none"> 偽陽性が多い 流産リスクがない 実施可能施設が 多い 安価 	<ul style="list-style-type: none"> 陽性的中率が高い 流産リスクがない 実施可能施設が 限定される 高価 実施時期が早い 	<ul style="list-style-type: none"> 流産リスクがある (0.3%) 実施可能施設が 比較的多い

出生前検査認証制度等運営委員会 NIPT 説明書より改変

当院では2022年4月にゲノム診療を推進する部門としてゲノム診療科が新設され、2023年10月より日本医学会によるNIPT認定施設として遺伝カウンセリングを行っています。当院での出生前検査についてはHPでもご案内しています。相談したいこと、不安なこと、どうなんだろう?と思うこと、などありましたら産婦人科外来あるいはゲノム診療科までお問い合わせください。

当院での出生前診断
カウンセリングのご案内



当院へお寄せいただいた寄付金を活用し、チェアを購入いたしました。

多くの企業、団体及び個人の皆さまより心温まるご寄付をいただき誠にありがとうございます。

お寄せいただいた寄付金を活用して、各外来待合室チェアの一部を更新いたしましたのでご報告させていただきます。パステルカラー調のピンク色を基調とした落ち着いたデザインです。ぜひご利用ください。

今後も皆さまの健康を守るため、地域の皆さまが安心して受診していただけるよう、努力して参ります。



新調した整形外科前のチェア

外科医の独り言...no.161

— 訓練三昧 —

今、強烈寒波が日本列島を襲っています。まさに災害級の大雪です。そして何よりもこの大雪が1週間近く続くらしいので大きな被害が出ないことを祈っています。

当院では年2回定期的に災害訓練を行っており、1月末には南海トラフ地震を想定した訓練を2日連続で延150名の職員が参加して実施しました。今回の訓練では傷病者役として広島国際大学の学生さん23名に参加していただき、より実践に近い形で訓練を行うことができました。

ちなみに傷病者役の学生さんたちは、将来救急救命士を目指している救急救命学科所属で、全身に傷のペインティングを施し迫真の演技をしてくれたことから、訓練が引き締まりました。一方で、学生さんたちも訓練を通じて学んだことをレポートに書いて提出するという課題を出されていたみたいで(大学からは実習として参加)、病院側、大学側共にWin-winの関係だったようです。また、訓練には普段あまり参加してくれない医師も多く参加してくれたために、より充実した訓練になったと自画自賛しています。

そして続けて先日、広島南消防署の皆さんのご指導を頂きながら火災消防訓練を行いました。良い意味で職員の皆さんが訓練慣れしていたためか、消防職員の皆さんから「去年に比べて格段に良くなった」とお褒めの言葉を頂きました。ここで思い出されるのが、ちょうど1年前に当院で発生したボヤ事件です。

平日の寒い夜、病院から1本の電話がかかってきました。3階の臨床検査室の天井から煙が出ているとのことで消防署に自動通報が入り、消防車がたくさん来ているとのことで、慌てて病院に向かいました。病院に向かう車中では、どうやって患者さんを安全に避難させることができるかということばかりを考えていました。

病院の周りにはすでに何台も消防車が止まっており、病院玄関には対策本部がすでに設置さ

れていました。そこで院長であることを名乗り、対策本部の会議に参加させていただきました。3階の天井裏に煙が充満していること、まだ火は出ていることは情報として入ってきましたが、火元(煙元)がなかなか特定できず、その後もなかなか新しい情報が入って来なかったため、自ら現場を確認すべく3階に走って行きました。

現場では多くの消防隊員の皆さんが、火が出た際に対応すべく放水の準備は整えられており、同時に煙元の特定のため天井裏に入って活動されていました。その様子は、意外と落ち着いておられ、騒然という雰囲気は全く感じられませんでした。焦ってイライラしていたのは私だけかもしれません。火が出れば患者さんの避難が必要となり、煙元の一つ上の階は新生児室ということもあり、避難も容易ではありません。それにしても皆冷静だとむしろ不安に感じていました。結局、天井裏の漏電が原因で、排気ダクト内の絶縁用の綿が焦げて大量の煙が発生していたようです。

一方、落ち着かない院長は、さっさと現場に走って行ってしまったので、本部では「院長はどこに行ったか?」と探していたそうです。もし火が出た時に消火活動に入れば、検査室の機器が水浸しになることの承諾を得ておかなければならなかったそうです。

あとで現場隊長に「なぜ皆あんなに落ち着いて活動できたのか?」と聞いたところ、大量の煙が発生していたが、白い煙だったので火は出ないと皆思っていたそうです。ちなみに黒い煙は火が出るそうです。

一方、新生児室では現場の看護師さんや医師の指示で、いつでも避難できるように準備していたそうです。結局、オタオタしていたのは院長だけだったということで、今回の消防訓練ではまさに率先して真剣に取り組んだ次第です。

院長/板本 敏行



ご意見箱

『マスク自動販売機』について 貴重なご意見をありがとうございました。

1階玄関に2カ所設置してあるマスクの自動販売機は100円硬貨しか使用できない。1,000円札でも対応できる機種を置いて欲しい。



頂いたご意見を受け、設置運業者に相談しましたが、残念ながら承諾は得られませんでした。マスク購入の為、100円硬貨が必要な際は、会計④番窓口で両替を承っておりますのでお申し付け下さい。マスク自動販売機にも両替の案内表示をいたしました。

